

令和5年度  
入学試験問題

第3回

国語

- 1 問題用紙は監督者かんとくしゃの指示があるまでは開いてはいけません。
- 2 開始のチャイムが鳴ったら、最初に問題用紙と解答用紙に受験番号と氏名を記入して下さい。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入して下さい。
- 4 記述で答える問題は、特に指定のない場合、句読点くとうてんや符号ふごうは一字として数えるものとします。
- 5 問題は1ページから16ページまであります。

受験 番号		氏  名	
----------	--	------------	--

森村学園中等部

Ⅰ 次のⅠ・Ⅱの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

Ⅰ 次の文章はテレビディレクターであり、様々な番組制作に関わっている佐々木健一さんのものである。

「良質な作品とは何か？」について、一つの例を挙げて考えてみたいと思います。

最近、NHKではナレーションのない演出をウリにしたドキュメンタリー番組がよく作られているのをご存じでしょうか。

なぜ、あえて「ノーナレーション」を強調するのか。

それは、これまで日本ではナレーションがある番組がほとんどだったからです。

そもそも「ドキュメンタリーはナレーションありき」という前提は、日本特有のようです。近年、海外コンクールで受賞する世界各国のドキュメンタリー番組を見ると、むしろナレーションがあるものの方が少ないのです。その一方でここ十数年間、日本のドキュメンタリー番組は海外で高い評価を受けているとは言い難い状況が続いています。

実際、「ナレーションが多い」日本のドキュメンタリー番組は説明的だ」とよく指摘されています。映像を見れば分かるのに、映像をそのままぞつただけの語りや、出演者の感情までまるで当事者のように読み上げるナレーションは珍しくありません。

海外コンクールの審査員や制作者から、「日本のドキュメンタリー番組は、心が揺さぶられない」といった指摘を受けることもありま<sup>②</sup>す。まるで隙間を埋めるようにナレーターがしゃべり続け、視聴者に理解させる（分からせる）ことに重きを置いている番組が多いからです。

では、なぜ、日本の制作者は、ナレーションでの説明を多用するのでしょうか？

その理由は、私もテレビ番組の制作現場にいたので容易に想像ができます。（中略）ひとつには「ナレーションで説明したほうが丁寧で分かりやすい」と考えられていること。そして「ナレーションがないと画が持たない。チャンネルを変えられ、視聴率も取れない」と思われているからでしょう。そう考えて突き進んだ結果、気がつけば世界で日本のドキュメンタリー番組は、ガラパゴス化<sup>③</sup>していったのです。

ここで、ふと素朴な疑問が浮かびます。

「では、どうして他の国では「ノーナレーション」のドキュメンタリーが主流なのか？ その方が国際的に作品のクオリティーが高いと評価されるのは、なぜなのか？」

現に他国のドキュメンタリストは、日本の制作者が「視聴者にウケない」と捉えているノーナレーションという手法をこぞって採用しています。彼らは「不親切で、間延びしたドキュメンタリーでも構わない」と割り切り、ナレーションなしにしているわけではありません。必然的にノーナレーションという表現に行き着いた、と捉えるのが妥当でしょう。

では、なぜ、彼らは「語らない」演出を選んだのでしょうか。

先ほど「クオリティーとは何か？」の結論として、私は次のように述べました。

「作品のクオリティーは、観客が受け取る情報量<sup>④</sup>で決まる」

つまり、良質な作品を創るには、「いかに観客に多くの情報を受け取ってもらおうか」が重要なのです。そうした視点で捉えると、実は、<sup>④</sup>「ナレーションがない方が観客が受け取る情報量は多い」

ということになり得るのです。そう言うと、首を傾げる人がいるかもしれませんが、普通はナレーションで説明した方が、番組の情報量が増すと思われがちだからです。

しかし、元々一つの映像やシーンには、様々な情報が無数にちりばめられています。例えば、出演者の表情や息づかい、暮らしぶりや他の人との関係性、別なシーンとの関連など、挙げれば切りがないほど情報であふれているのです。

そこへナレーションが加えられると、その映像やシーンの意味合いが限定され、明確になり、確かに観客にとっては見やすくなります。

ところが、同時に観客が受け取る情報は、「ナレーションで読まれた文章（に付随する映像）」に限定されてしまう恐れがあるのです。ナレーションという手法は、下手なやり方だとかえって（観客が受け取る）情報量を減らし、作品の質の低下を招いてしまうのです。

例えば、テレビドラマや劇映画では、いわゆる<sup>⑤</sup>「説明的な台詞」は観客を萎えさせるものとしてよく槍玉にあげられます。もし、全編にわたってナレーションが読まれるようなドラマや映画があったら、あまりに説明的で感情移入できず、観客はまったく楽しめないでしょう。

そもそも私たちは、ナレーションのような説明がなくても、ごく普通に他人の心理を読み、その場の状況を理解しながら暮らしています。日常的に、ナレーションのない世界<sup>⑥</sup>で無数の情報を受け取り、考えを巡らしながら生きているのです。

そうした人間の営みから見ても、説明的なナレーションを省いた作品の方が好まれ、世界的な評価も高い状況は当然だと言えるでしょう。

私が企画・制作する『ブレイブ 勇敢なる者』シリーズは、通常の日本の番組よりもはるかにナレーションの量が少ないスタイルを採っています。

その反面、インタビュなどで取材相手が語るシーンを重視しています。ナレーションで語るより、関係者が自ら語る言葉の方がリアリティーや説得力があり、喜怒哀楽といった感情も伴うからです。つまり、「情報量が多い」のです。

語られる言葉だけでなく、皺の入った表情やその人物を物語る背景など、音声以外の情報も重要な要素だと捉えています。ナレーションの有無というよりむしろ、「撮影現場で記録した映像と音声を大事に扱いたい」と考え、結果的にこうした演出スタイルとなりました。

ちなみに、私自身はナレーションという手法を全く否定的に捉えてはいません。重要なのは、その手法の使い方だと考えています。テレビ業界に足を踏み入れた頃、先輩方からナレーションの心得を教えられました。

「映像を見て分かることは、ナレーションで読むな！」

「被写体の気持ちを、勝手にナレーションで読むな！」

それは、観客が受け取る情報量、という観点からみても至極真つ当な演出論でした。作り手がナレーションによって身勝手に情報を限定してはいけません。

一方で、ナレーションで読まれるべき内容は、映像では伝わらない情報や事実のみで十分だと教わりました。それによって巧みに映像とナレーションが絡み合い、視聴者は自然と感情移入するのです。

(佐々木健一『面白』のつくりかた』より)

## Ⅱ 次の文章は歌人の永田和宏さんと映画監督の是枝裕和さんとの対談である。

永田 子どもが主人公になっている映画『奇跡』で心に残ったのが、その少年が茫然と向こうを見ている姿をカメラがとらえているシーンです。その子が見ている風景は撮らないで、向こうを見ている彼の表情を撮っている。

「何かをじつと見ている表情を、見ている先を映さずに撮ると、何を見ているのかも含めて観客はフレームの外を想像し、ふとその人物の内面へと寄り添ってくれます」(『映画を撮りながら考えたこと』)と、是枝さんは書いておられますね。観客が当然のように、そのうち子どもが見ているはずのものが映し出されるだろうと待っていると、その期待は裏切られる。その代わりに、少年の表情がスクリーンに現われることで、彼の内面へと自分の感覚を向けざるを得なくなる。これは、表現の本質そのものと言っていいのではないのでしょうか。つまり、直接的には言わずに、伝えるということなのです。

是枝 はい。難しいんです、それ。

永田 かなり意識していますか？

是枝 説明しすぎないように抑制してつくっているつもりですが、つつい、どこかで間違うんですね。(中略)

永田 私自身は短歌をやっていますが、言いすぎてしまう、つい説明しすぎてしまうことがあります。そうするとまったくおもしろくなくなってしまう。わかってほしいと思うことが作品をダメにするというのは同じだなという気がします。

是枝 その「描写」と「説明」の違いは、いったい何なんでしょう。

永田 いちばんの落とし穴は、これだけでは読者がわかってくれないんじゃないかと考えてしまうこと。つまり、読者への信頼感だと思います。映画を観てくれる人が、ここまではわかってくれるだろうという信頼感がないと、「説明」に走ってしまうし、是枝さんみたいな映画はつくれないですよ。いったい、どんな人を想定して映画をつくっているんですか。

是枝 テレビ番組をつくる時に局の人に言われるのが、バカでもわかるようにつくってくださいということ。いや、ほんとに言われるんですよ(笑)。ちゃんと見てない人にもわかるようにということですが、見てなきゃわからないだろうと思うじゃないですか。でも、今は「ながら見」が基本だから、ケータイをいじりながらでもわからなくちゃいけない。台所仕事でテレビに背中を向けていて

も、今、誰と誰がどんな関係で何をしているかセリフで全部わかるようにしてくれと言うんです。絵がなくてもわかるのが、最大のサービスなんですね。

もちろん、僕はそこを目指してはいないので、それならどこに合わせようかということになります。みんなにわかるようにしようと思うと、歯止めがきかなくなる。先ほどお話しした「地球ZIG ZAG」のプロデューサーから最初に言われたのは、「誰かひとりに向けてつくれ」ということでした。視聴者なんてつかみどころがないから、誰かひとり、おまえの彼女でもいいし、母親でもいい、子どもでもいいし、田舎のおばあちゃんでもいいから、その人にわかるようにつくれ。このひとことが今も役に立っていて、なるべく守るようになっています。

たとえば『奇跡』という映画は、そのときまだ三歳か四歳だった自分の子どもに向けてつくりました。この子が、映画に出てくる子どもたちと同じ年齢ごろになったときに見せることを想定して、将来の自分の子どもに向けてつくりようと思ったら、自然と子どもに語り掛ける言葉遣いになった。あ、こういうことか、と思いました。

永田 特に文学作品ということになると、読者は目に見えない存在ですよ。うなずいてくれるのが見えるわけではない。それはけっこう不安で、短歌なんて短いからわかってもらえるかどうか、ほとんど自信が持てない。そこでみんなにわかってもらいたいと思ってつくと、最大公約数になってしまう。そうすると何もおもしろくないですね。とくに、是枝さんの映画を観ていていいと思うのは、もっともらしい言葉がないところです。誰もが納得するようなもっともらしい言葉をできるだけ使わない脚本が素晴らしい。

是枝 ありがとうございます。

(永田和宏 是枝裕和他『僕たちが何者でもなかった頃の話しよう』より)

※ 問題作成の都合上、文章の一部を省略したところがあります。

(注) \*付随……………ついて従うこと。

\*萎えさせる……………がっかりさせる。

\*檜玉にあげる……………攻撃、批判の目標とされる。

\*被写体……………ここでは、撮影される人を指す。

\*至極……………この上なく、きわめて。

問一——①「その一方で」とはどのような内容を受けていますか。その内容として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 最近のドキュメンタリー番組の演出はナレーションのないものが一般的だということ。

イ 日本のドキュメンタリー番組はナレーションのあるものが前提となっていること。

ウ 近年ナレーションのないドキュメンタリー番組が国際的に一定の評価を得ていること。

エ ドキュメンタリー番組にナレーションを入れるのは日本特有だということ。

問二——②「まるで隙間を埋めるように」とありますが、ここで「隙間」とされるのは「ドキュメンタリー番組」のどのような場面ですか。その具体例として適当でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 出演者がじっと考えて沈黙が続いている場面。

ウ 出演者の自宅や部屋の中の様子が示されている場面。

イ 出演者の生い立ちや経歴が解説されている場面。

エ 出演者が暮らす町並みが映し出されている場面。

問三——③「ガラパゴス化」とありますが、「ガラパゴス化」とは、「周囲とはかけ離れた独自の進化をすること」を意味します。本文中における「ガラパゴス化」の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 諸外国ではナレーションを使ってドキュメンタリー番組内の登場人物の内面を丁寧に描写するのに対して、日本ではナレーションを使って映像に描かれていることを忠実に語ること。

イ 諸外国ではナレーションを使わずにより多くの映像を用いることで説明を行うのに対して、日本ではナレーションを使うことで、映像で描かれていることを言葉で理解させようとする。

ウ 諸外国では見ている人の心を揺さぶるような表現が重要視されているのに対して、日本では映像で描かれている出来事を正確に伝えるための様々なテクニクが重視されていること。

エ 諸外国では映像で描かれていることを作品中でほとんど説明しないのに対して、日本では視聴者にその映像について理解させるためにナレーションを多用していること。

イ 諸外国では映像で描かれていることを作品中でほとんど説明しないのに対して、日本では視聴者にその映像について理解させるためにナレーションを多用していること。

ウ 諸外国では見ている人の心を揺さぶるような表現が重要視されているのに対して、日本では映像で描かれている出来事を正確に伝えるための様々なテクニクが重視されていること。

エ 諸外国では映像で描かれていることを作品中でほとんど説明しないのに対して、日本では視聴者にその映像について理解させるためにナレーションを多用していること。

イ 諸外国では映像で描かれていることを作品中でほとんど説明しないのに対して、日本では視聴者にその映像について理解させるためにナレーションを多用していること。

ウ 諸外国では見ている人の心を揺さぶるような表現が重要視されているのに対して、日本では映像で描かれている出来事を正確に伝えるための様々なテクニクが重視されていること。

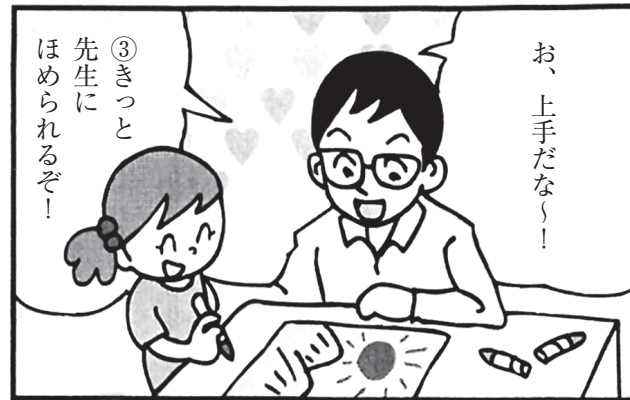
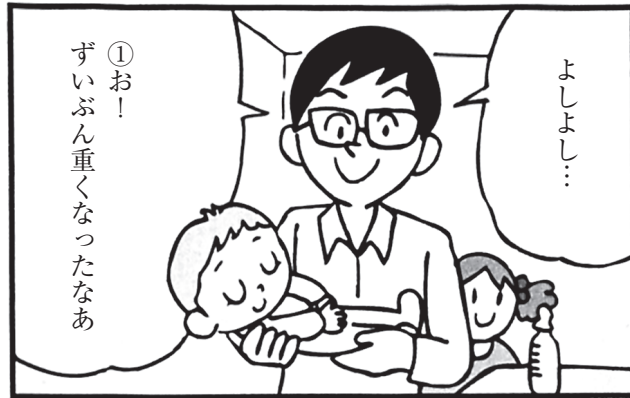
エ 諸外国では映像で描かれていることを作品中でほとんど説明しないのに対して、日本では視聴者にその映像について理解させるためにナレーションを多用していること。

問四——④『ナレーションがない方が観客が受け取る情報量は多い』とありますが、ナレーションがない方が情報量が多くなると筆者

が考えるのはなぜですか。その理由を五十字以上六十字以内で説明しなさい。

問五

⑤ 「〃説明的な台詞」<sup>せりふ</sup>とありますが、次のマンガを読んで、「説明的な台詞」になっていると思うものを①～④から選び、文章Iを参考にして適切な台詞に書きかえなさい。



問六

⑥ 「そうした人間の営み」とありますが、それはどのようなことですか。次の具体例から適当でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日曜日の夕方、商店街で三歳さいくらいの女の子と手をつないで歩いているA子の姿を見かけた。きっと年の離れた妹はななのだろうと、仲むつまじい二人の様子を見て心が温まるように感じた。

イ 学校が終わって家に帰ると父親が鼻歌を歌いながらエプロンまでしてめずらしく料理を作っていた。きっと仕事が上手くいつているにちがいない。

ウ 近所の八百屋のシャツターがここ数日閉まったままで、店前にも人の気配がない。いつも元気な店主に何かあったのだろうかとも心配そうな顔をしている。

エ 昨夜、隣となりの家から出火しボヤ騒さわぎが起こった。しかし虫の知らせだったのだろうか、たまたま目が覚めたというその家のご主人のおかげで大事には至らなかった。

問七 ——⑦「あ、こういうことか、と思いました」とありますが、ここからは是枝さんのどのような実感が読みとれますか。その内容

として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア みんなに理解してもらえない映画を撮るにはどうすればいいのかと苦心していたが、幼い子どもにも視線を合わせれば大人にも分かってもらえるということに気づいたということ。

イ テレビ番組は「ながら見」が基本なので見ていない人にも内容を分かるように作らなくてはいけないが、映画の場合は観客が作品に集中するので自身の思う通りに作れるということ。

ウ みんなに分かってもらおうとして作品を作るのではなく、対象者を具体的に絞り込むことでどのように映画を撮るかという方向性が定まってくるということ。

エ 顔の見えない「誰か」に対して作るのではなく、一人の自分の大切な人のために映画を作ることと自然とみんなに受け入れられるような映画になるということ。

問八 ——⑧「最大公約数になってしまふ」について、あとの問いに答えなさい。

① ここでの「最大公約数」の意味としてもっとも適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 子どもでもわかるような簡単な言葉。      イ 多くのことから称賛を得られるような巧みな描写。

ウ 大勢に受け入れられるような典型的なおもしろさ。      エ 誰もが納得するような理解しやすい表現。

② 短歌をよむ時に「最大公約数」にならないようにするために何が必要だと永田さんは述べていますか。これより前の永田さんのセリフから七文字で探し、答えなさい。

問九 次の中学生と先生との会話を読んで、あとの問いに答えなさい。

さき 「文章Ⅰ・Ⅱを読むと、ドキュメンタリー番組や映画、それに短歌においても『説明的な表現』は作品の質を低下させてしまう共通点があることが分かったわね。」

はるき 「文章Ⅰでは登場人物の心情が全てセリフで説明される映画があったら、見ている人は楽しめないと書いてあったね。どうやら筆者はナレーションを入れる表現方法にはかなり反対のようだね。」

みく 「説明的すぎる映画だと観客が感情移入できないからよね。確かに日常の中で考えてみても、私たちはいちいち言葉で説明されなくても相手の気持ちを表情や仕草で感じとっているわ。」

かずき 「Ⅱの文章では登場人物の表情をじっくりと映す映画の場面が印象的だと書いてあったね。そうすることで、自然と観客が登



場人物の内面を想像するというのが監督の狙いみたいだよ。」

先生

① 「I・IIの文章をまとめると、面白い作品にするためには説明をし過ぎずに、  
X  
② 四人の中で本文の内容を正しく理解していない人がいます。その生徒の名前を答えなさい。  
X  
生徒の会話を踏まえて、  
X  
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百」

② 生徒の会話を踏まえて、  
X  
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百」

【二】 僕（コペル）は十四歳の少年である。ユージン（優人）はコペルの小学校の同級生で、数年間学校に通っていない。以下はコペルが久しぶりにユージンを訪ね、彼が学校に行かなくなったきっかけを聞く場面である。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【場面①】

「きっかけは米谷さんのこと？」

僕はさっき言い返せなかった代わりに、気になっていたことを訊いた。

「群れから離れて考える、ってことは、影響受けたかもしれない。けど、直接は、あの子の担任の教師だな」  
あの子の担任って……杉原先生だ。

「杉原……先生？ そんな変な人だった？ 僕は好きだったけど」

「コペルはな」

ユージンは深くため息をついた。

杉原先生のことを考えると、いつもバックには太陽が明るく照りつけている、ってイメージが浮かぶ。若くて元気がよくて、いつも創意工夫とやる気にあふれていた、青春学園ドラマの主人公になりそうな先生だった。ちょうど学校が郊外にあったから、僕たちは大風を作った。近隣の川で水車を作ったりしたものだ。そういうことを企画し、先頭に立って指導していたのはいつも杉原先生だった。熱血漢であるあまり、我が道を突っ走る。きらいはあったけれど、意地の悪いところなんかはなかった。それは誓ってもいい。そんな杉原先生が、いったいユージンに対して何をしたというのか。

【場面②】

これは、ユージンが、自分自身の記憶から再構成して語った、「そのとき何が起こったか」だ。

「（中略）朝の職員会議が終わって、教室に入ってきた杉原は、いきなり、「今日の総合学習では、食べ物はどこから来るかということ勉強したいと思う。たとえばトリ肉は、最初からパックに入っているわけではなくて……」って言い出した。いやな予感がした。「今、そこにある命が、自分の命を支えてくれる、自分の血や肉になるという体験をしてもらいたいと思う。昔、家で飼っているニワトリをつぶして食べるっていうことは、ごく普通のことだった。だからこそ、食べ物にも自然と感謝の気持ち湧いたんだ。先生は以前から君たちにもそういう体験をしてもらいたいと思ってたんだ。命が繋がっていく、ということ。ちょうど今日、優人が自宅で飼えなくなったニワトリを持ってきてくれた。もし、優人が許してくれたらだけれど、つぶして、料理する、ってことをやってみないか」。血の気が引くって、ああいうときの

ことを言うんだろうな。杉原は自分の「斬新で本質をついた教育」に興奮して目がきらきらしていた。みんなも、ええーって言いながら、退屈な授業が、なんかとてつもなく刺激的なものに変わり、ふだんはタブーそのものの、「殺し」の場に居合わせられるっていう、非日常的な事態に動揺し、それを、僕ははつきりと断言するけど、「興奮して楽しんでた」。コペル、おまえもそうだったはず。いや。責めてるんじゃないよ。そのことを認めてほしいとは思ってるけど。

とにかく、僕は、みんなのために二ワトリを教材として提出すべきだと期待されていた。クラス中の無言の圧力を感じた。

僕は、教材にするために二ワトリを飼っていたんじゃない。

その一言が、どうしても言えなかった。僕がずっと黙っているの、杉原は苛々した。「さつき、優人のお母さんに連絡したら、そういうことなら二ワトリも本望でしょうって言うてらしたぞ」。杉原のその一言がクラスのムードに追い打ちをかけた。僕は、それで、僕は、とうとう最後に領いたんだ。自分の気持ちとは関係なく、体がそう動いたんだ。自分でないみたいだった」

そうだ、僕も覚えてる。え？ え？ っって驚いているうちに、ことはどんどん進んでいった。いやだ、やめてほしい、と泣き出す女の子もいたっけ。でも、ユージンはただ黙っていた。いいのかよ、いいのかよ、と僕は半信半疑でそこにいた。異を唱えようにも、杉原先生の言いは、いかにも (b) 理になっっているような気がした。ただ、どこか、何かを無視したような強引さで進んでいく気がしたけど、どこがおかしい、というのを指摘するだけの力が、僕にはなかった。「何かがおかしい」って、「違和感」を覚える力、「引っ掛かり」に意識のスポットライトを当てる力が、なかったんだ。「正論風」にとうとうと述べられると、途中で判断能力が麻痺してしまう癖もあった。

けれど、ユージンが自分なりの判断でそうするというのなら、それはそれですごい自己犠牲のように思えたし、また、ああいうことって、「本当に大切な、知っておかなければならないこと」のような気もしたのも事実だ。「命が繋がっていくこと」なんて言われると。

ユージンはそれからコッコちゃんの首を切ったり、吊るして血を抜いたり、解体したりっていう作業に、積極的とまでは言わないけど、冷静に対処しているように見えたから、よく分からないながら、そんなものなのかな、と思ってしまうんだ。僕自身、よく知ってたコッコちゃんがそんな目に会うのを見るのは、本当はつらかったけど、飼い主のユージンが我慢してらんだから、って自分に言い聞かせた。これは、何か、大事なことに繋がっているはずなんだから、と。

ああ、なんて馬鹿だったんだろう。

ちよっと考えれば分かることじゃないか。

コッコちゃんをブラキ氏だと思えば。

「ユージン」

かけた声がかすれてしまった。

「今、僕は、全然気づかなかった、ごめん、って言おうとしたんだ。でも」

③僕は、ちよつと躊躇した。とんでもないことに気づいたんだ。こんなこと、口にしていいんだらうか。周りの景色が、すっかり色を失った。自分の心臓が血液を体中に送り出している、その鼓動が、内耳にまで達してじんじんと響いている。

いや。

言わなくちゃ。

僕は大きく息を吸って、吐いた。

「僕はあのときずっと、声がかけれなかったんだ、君に。ということは僕はやっぱり、気づいてたんだ。分かってたんだ、君の気持ちを」  
自分の声が自分でないようだった。それ以上続けられなくて、しゃがみ込み、片手で額を押さえた。

僕は心の中で続けた。

……そして、あそこにはいた人間のなかで、君がどんなにコッコちゃんを可愛がっていたか、僕ほどよく知っていた者はいない。僕は、裏切り者以外の何者でもないじゃないか。④

(中略)

正直に言うと、僕はあのとき、もしかしたら、杉原先生はユージンには確かに欠けていたそういう「たくましさ」——可愛がっていたニワトリでもワシワシ食っていくような——を身に着けさせようとしているのかもしれない(そのときはこんな難しい言葉じゃなくて、単に、「これって結局、ユージンのためにもなるのかな?」って思ったただけだったけど)、とも思ったりしたんだ。でもそれは、おかしいことはおかしい、って勇気を出して(たとえ語彙が足りなくて言い負かされるのが分かっている)言えなかった卑怯者の、自己防衛のこじつけに過ぎなかつたんだ。⑤

【場面③】

ユージンは改めて思い出したのか、しばらく黙っていた。そしてため息をつき、地面に腰を下ろしたまま膝に回していた両手を後ろにつくと、前方の一点を見つめながら、また淡々と話を続けた。

「ニワトリはその日、唐揚げや炊き込みご飯やさまざまに調理された。けれど僕は手をつけられなかった。杉原はそれを見ていた。次の日、給食が終わった後、杉原は僕のそばに来て、さつき君が飲んだスープは、昨日のあのニワトリのガラから採ったものだよ。これで、あのニワ

トリは、君の一部になって永遠に一緒に生きていくんだよ、って、例の安易な自己陶醉のなかで、すごい真理を教えるようにささやいた。でも、本人のそういう「熱血先生ぶり」とは裏腹に、自分で意識しているのかわからないのか、悪趣味なはずだが成功したかどうかを舌なめずりしながら僕の反応を見ている、そういうレベルの低い好奇心ではち切れそうなのが分かった。僕はすぐに吐いた。鼻の奥がジンジンした。吐きながら思った。

なんでこんなことになったのか。

僕は集団の圧力に負けたんだ。

ばあちゃんじゃないけれど、「あれよあれよという間に事が決まっていって」その勢いに流されたんだ。

僕を信じて付いてきた、あのニワトリを守り切れなかった。生きて、固有名詞で呼んでいたニワトリ、僕が名前を呼んだらいつも顔を上げて、それから、何ですかっていう返事のように、顔を横に傾けて見せていたあのニワトリが、モノになって分解されて目の前に並べられたと  
きのことは、一生忘れない。

僕も集団から、群れから離れて考える必要があった、米谷さんのように。

しみじみそう思って、決行したのがそれからしばらく経ってからだだったから、あれがまあ、学校に行かなくなった理由だなんて、誰も分からなかったと思う。誰もまた、分かりたくなかっただろうし」

⑦ ユージンは、この間ずっとコッコちゃんのことを「ニワトリ」と呼んでいた。

もう「コッコちゃん」とは呼べないのだろう。

(梨木香歩『僕は、そして僕たちはどう生きるか』より)

※ 問題作成の都合上、文章の一部を省略したところがあります。

(注) \*米谷さん……ユージンが知り合った、戦時中徴兵を避けるためにほらあなにこもって一人暮らしをしていた男性。

\*つぶす……家畜を、料理して食べるため殺す。

\*コッコちゃん……ユージンが飼っていたニワトリの名前。

\*ブラキ氏……コペルの飼い犬。

問一 ――(a)「きらいはあった」、――(b)「理にならなっている」の意味として適当なものを、次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

(a) きらいはあった

ア かすかな兆候があった

イ 良くない傾向があった

ウ かたくなな思い込みがあった

エ 明らかな欠点があった

(b) 理にならなっている

ア 科学的に正しい

イ 説得力がある

ウ 筋道が通っている

エ よく考えられている

問二

――①『僕は、それで、僕は、とうとう最後に領いたんだ。自分の気持ちとは関係なく、体がそう動いたんだ』とありますが、なにか「気持ちとは関係なく」ユージンを領かせたのですか。それを示す十字の部分を【場面②】のこれより前の部分に求め、ぬき出しなさい。

問三

――②「でも、ユージンはただ黙っていた」とありますが、黙っているユージンを見たコペルの様子の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ユージンはどうしてニワトリが殺されるのを止めないのかと焦っていた。

イ ユージンはニワトリを教材にすることに反対しないのかと腹を立てていた。

ウ ユージンがなんとかして杉原の勢いを止めてくれないかと期待していた。

エ ユージンだけはクラスメイトを冷静に観察しているのだと感心していた。

問四

――③「周りの景色が、すっかり色を失った」とありますが、この一文にはどんな効果がありますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア コペルのためらう気持ちをそれとなく読者に気づかせる効果。

イ コペルの感じた絶望感を示して読者に共感を抱かせる効果。

ウ コペルの悲しみを周りの景色を描くことで読者に想像させる効果。

エ コペルの罪悪感の大きさを強調して読者に印象づける効果。

問五 ——④「僕は、裏切り者以外の何者でもないじゃないか」とありますが、コペルはどのようなことを「裏切り」だと述べているのですか。五十字以上六十文字以内で答えなさい。

問六 ——⑤「自己防衛のこじつけ」とありますが、これはどのようなことを指していますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分を守るために、ニワトリを殺す授業はユージンのためになるのだと納得しようとしたこと。
- イ 自分を守るために、ニワトリを殺したくなかったユージンの気持ちを無視しようとしたこと。
- ウ 自分を守るために、ユージンが我慢しているのを理由に自分もつらさに耐えようとしたこと。
- エ 自分を守るために、クラス全体の雰囲気に合わせて杉原先生の考えに賛成しようとしたこと。

問七 ——⑥『学校に行かなくなった理由』とありますが、ユージンが学校に行かなくなったのはなぜだったのですか。その理由として**適当でないもの**を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 杉原が自分を嫌っているのはつきりしたことから、自分も杉原を拒否する反抗的な態度を示そうとしたから。
- イ 杉原の自己満足によって傷つけられたことから、もう杉原のクラスで過ごすことはできないと思ったから。
- ウ 集団の力に対抗できず大事な存在を守れなかったことから、このまま集団に属するべきなのか考え直したから。
- エ 杉原にあおられてクラス全体が同じ意見になる様子を見たことから、集団というものを恐ろしく感じたから。

問八 ——⑦「もう『コッコちゃん』とは呼べないのだろう」とコペルは述べていますが、ユージンがニワトリを「コッコちゃん」と呼べなかったのはなぜだと考えられますか。その理由として、**適当でないもの**を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 集団の勢いに逆らえないままコッコちゃんを見殺しにしてしまったどうしようもない悔しさを思い出してしまったから。
- イ コッコちゃんを解体する作業に加わってしまったことで、コッコちゃんをモノとして見ることでできなくなったから。
- ウ コッコちゃんを守れなかったために、自分はペットとして慣れ親しんだ名前をもう呼ぶ資格がないと思っているから。
- エ 名前までつけてかわいがっていたペットを殺してしまったという罪悪感やショックが現在も消えずに残っているから。

問九 それぞれの場面で、コペルとユージンはコッコちゃんを教材にした授業における杉原先生の行動をどのようにとらえていますか。その

説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 【場面①】の終わりの時点で、コペルは、杉原先生は熱血漢で我が道を行くために意地悪くなることがあったととらえている。
- イ 【場面①】の終わりの時点で、ユージンは、杉原先生は彼自身かれの自己満足に生徒を付き合わせるところがあったととらえている。
- ウ 【場面②】の終わりの時点で、コペルは、杉原先生はユージンにたくましさや身につけさせようとしていたととらえている。
- エ 【場面③】の終わりの時点で、ユージンは、杉原先生は気に入らない生徒を悪意を持って攻撃こうげきしている自覚があったととらえている。

#### 問十

本文の表現の特徴ていしつの説明として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 【場面②】の「みんなも、ええーって言いながら」や「いやだ、やめてほしい、と泣き出す女の子」のようにクラスメイトの発言を直接引用する書き方は、語り手であるコペルの未熟さを示している。
- イ 地の文はコペルが語り手であるが、ユージンの発言がそのまま書かれていることによって、二人が小学生のときに体験した出来事をそれぞれの視点からとらえることができる。
- ウ 場面は時間の流れにしたがって分けられており、【場面①】と【場面③】は現在の場面であるが、【場面②】は現在からユージンとコペルの小学生時代までさかのぼった過去の場面である。
- エ 【場面②】の「(そのときは)思っただけだったけど」や「(たとえ語彙ごいが)分かっていても」のように、丸かっこはコペルの現在と小学生のときの考えの違いを明確にするために使われている。



三

次の①～⑧の——部のカタカナを漢字になおし、⑨～⑫の——部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① 大根をコマかくきざむ。
- ② 地方特有のノウサンブツをさがす。
- ③ セツドを守って行動する。
- ④ 両親をソッケイする。
- ⑤ 五十音順にハイレッツする。
- ⑥ カンチヨウ時刻を調べる。
- ⑦ 土地をユウコウに活用する。
- ⑧ イッシン不乱に勉強する。
- ⑨ 気高い姿の王子だ。
- ⑩ あさがおの種が発芽する。
- ⑪ 城を築く。
- ⑫ 魚心あれば水心。